

2009年10月14日

北海道知事 高橋はるみ 様

当別町長 泉亭俊彦 様、札幌市長 上田文雄 様、石狩市長 田岡克介 様

下川町長 安斉保 様、名寄市長 島多慶志 様

平取町長 川上満 様、日高町長 三輪茂 様

富川北一丁目沙流川被害者の会 代表 中村正晴

平取ダム建設問題協議会 代表 松井和男

下川自然を考える会 会長 千葉永二

サンルダム建設を考える集い 代表 渋谷静男

名寄サンルダムを考える会代表 竹内和郎

ダム建設を推進する地方自治体首長への要望

私たちは、サンルダムと平取ダム建設の今年度の事業を凍結するとして前原国土交通大臣の方針を歓迎するものですが、当別ダムについて建設を進めている北海道知事の判断を尊重するとして考えは納得できないものです。

私たちが凍結を歓迎するのにはいくつかの理由がありますが、住民や自然保護団体の疑問や懸念を無視する形で進められてきたそれぞれのダム計画が、凍結・見直しによって、民意を反映するように論議され、その結果よりよい河川整備計画が作成されると考えたからです。

私たちは、開発局（サンルダムと平取ダム）と北海道知事（当別ダム）の、民意をまったく反映しない進め方を第一に批判するものです。ダム建設は、現在だけでなく将来に大きな影響を及ぼす事業です。治水はどうか、利水はどうか、現在の厳しい財政状況から考えてどうなのか、環境はどうなるのか・・・、慎重にも慎重に検討すべき課題です。環境問題は、ダムがある限り続く問題であり、さらにダムはいずれ堆砂などで撤去しなければならない負荷を子孫に背負わせる構造物です。

治水について、最近では、従来の国土交通省が進めてきた、「計画高水」を基本としたダムの考え方に批判や代案が出されてきました。10月3日に旭川で行われたシンポジウムで、元国土交通省官僚で河川行政に詳しい宮本博司さんは、治水について2点を強調しました：1) 100年に一度の洪水に対応するダムは、それより少ない雨量では必要ないし、それを越える雨量（最近はそのケースが多くなっています）ではまったく役に立たず危険であり、わずかな範囲の雨量にだけ必要なダムは無駄である、2) 堤防は洪水がきても破堤しなければ被害はそれほど大きくなる。しかし、現在の堤防は、計画流量の水位を超えると堤防は壊れるように作られている。どんな洪水でも破堤しない堤防づくりは可能だし、国土交通省は以前にはそのことをめざしていたのに、やめてしまった。堤防を強化するほうがずっと国民の生命と財産を守る上で重要であり、必要である。

利水（水道水と灌漑用水）は、さまざまな工夫と技術で、以前と比べてはるかに少なくてすむようになり、水資源管理の重要性の認識は進んでいますが、ダム計画においては残念ながら重視されていません。具体的な事例で述べますと、下川町がサンルダムを必要としている根拠の一つに、ダムから水道水を取水するというのがあります。その水量は、130m³/日です。この量は、1.5L/秒になります。この程度の水が必要ならば何もダムに頼らず、下川町に流れている清浄な河川から取水すればよいと、誰もが思うのではないのでしょうか。また、札幌市は、現在水道水は十分量確保していて、新たな水源を必要としないにもかかわらず、当別ダムを必要と述べています。

ダムは、水を滞留させ、土砂を止め、魚の移動を阻止します。このことは、水質の悪化、ダム下流の泥化と川床低下、河口域における海岸線の後退と漁場環境の悪化をもたらし、さらにサンルダムで問題となっているようにサクラマス資源に重大な悪影響を及ぼします。これらに対処するためには、膨大な予算を毎年つぎ込まなければなりません。現在計画されているダムは、そうした大きな代償を子々孫々に渡り支払ってまで建設しなければならないものなのでしょうか。また、全国を見渡しても、ダム建設によって地域が活性化した例は少ないと考えています。地域住民などに詳しく説明して、積極的な意見を募集し、同意と協力を依頼して、進めるべきものです。

しかし、私たちが知る限り、ダム推進自治体で町ぐるみ、活発な論議をして、ダム建設が必要となったということを知りません。天塩川流域の住民 5000 人を対象とした、北海道開発局による住民アンケート（1998 年実施）では、ダムが必要と回答した人は 7%で、自治体首長が「住民が必要としている」という見解とはまったく異なります。

私たちは、地域の問題は地域で決める時代に入ってきたと考えています。ダム建設の膨大な予算を、自然環境を豊にする地域本来の活性化や治水に向けるべきだと考えます。従来のいきさつは横において、前原大臣が明らかにした凍結・見直し方針を真摯に受け止めて、ダム計画について地域住民が納得する活発な論議を行うよう、要望いたします。

なお、この要望書は、地元団体と共同してダム問題に取り組んでいる北海道脱ダムをめざす会の事務局団体（自然林再生ネットワーク 代表 前田菜穂子、当別ダム周辺の環境を考える市民連絡会 代表幹事 安藤加代子、(社)北海道自然保護協会 会長 佐藤謙）から発信しました。

この要望書についての質問その他の問い合わせは、北海道自然保護協会（電話&FAX：011-251-5465）にお願いいたします。

参考 北海道脱ダムをめざす会

北海道脱ダムをめざす会
(社)北海道自然保護協会 会長 佐藤謙
北海道自然保護連合 代表 寺島一男
十勝自然保護協会 会長 安藤御史

富川北一丁目沙流川被害者の会 代表 中村正晴
平取ダム建設問題協議会 代表 松井和男
苦小牧の自然を守る会 代表 館崎やよい
イテキ・ウエンダム・シサムの会 代表 佐々木義治
平取ダム建設で失われる自然を守る会 代表 中村智子
自然林再生ネットワーク 代表 前田菜穂子
下川自然を考える会 会長 千葉永二
サンルダム建設を考える集い 代表 渋谷静男
名寄サンルダムを考える会 代表 竹内 和郎
サンル川を守る会 代表 橋本 泰子
環境ネットワーク旭川地球村 代表 山城えり子
大雪と石狩の自然を守る会 代表 寺島一男
北海道の森と川を語る会 代表小野 有五
旭川・森と川ネット21 代表 平田一三
当別ダム周辺の環境を考える市民連絡会 代表幹事 安藤加代子